

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 11 月 11 日 (2021.11.11)

【公表番号】特表 2019-513441 (P2019-513441A)

【公表日】令和 1 年 5 月 30 日 (2019.5.30)

【年通号数】公開・登録公報 2019-020

【出願番号】特願 2018-550769 (P2018-550769)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/22 (2006.01)

A 6 1 M 25/00 (2006.01)

A 6 1 B 8/12 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/22

A 6 1 M 25/00 5 3 0

A 6 1 B 8/12

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 3 年 9 月 1 日 (2021.9.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

脳内もしくは脳室内の出血部または血腫を超音波加速式で血腫溶解または血栓溶解するための装置であって、いくつかの隔てられた区画または内腔を収容する本体（20）を備え、前記区画または前記内腔は、

- － 流体および／または医薬用活性物質を脳内もしくは脳室内の前記出血部または前記血腫にフラッシュするためのフラッシュカテーテル（1）と、
- － 脳内もしくは脳室内の前記出血部または前記血腫から流体を排出するためのドレナージカテーテル（2）と、
- － 超音波プローブダクト（3）と、
- － 圧力センサダクト（5）と、を形成しており、

前記区画または前記内腔は、互いに近接して配置されており、長手方向延長において前記区画または前記内腔の少なくとも上側近位部セクションが壁によって隔離されており、前記圧力センサダクト（5）の内腔が圧力センサ（6）を組み込んでおり、前記超音波プローブダクト（3）の内腔に超音波内視鏡検査プローブ（4）が誘導され、

前記本体（20）の下側遠位部（1. 2, 2. 2）において、前記ドレナージカテーテル（2）および前記フラッシュカテーテル（1）は、1つ以上の貫通部（7）によって透過可能に接続されている、装置。

【請求項 2】

前記フラッシュカテーテル（1）の上側近位部の部分（1. 1）および／または前記ドレナージカテーテル（2）の上側近位部の部分（2. 1）が、屈曲状に前記本体（20）から側方に突出している、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記本体（20）の下側遠位部（2. 2）において、前記ドレナージカテーテル（2）の外側壁が開口（8）を備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 4】

前記超音波プローブダクト（３）は、前記ドレナージカテーテル（２）とは反対側に配置されており、前記フラッシュカテーテル（１）の少なくとも一部分が、前記ドレナージカテーテル（２）と前記超音波プローブダクト（３）の間に配置されている、請求項１～３のうちいずれか一項に記載の装置。

【請求項５】

前記圧力センサ（６）を組み込む前記圧力センサダクト（５）は、前記本体（２０）の外側部に配置されている、請求項１～４のうちいずれか一項に記載の装置。

【請求項６】

前記本体（２０）の前記外側部は、長手方向および／または横断方向での前記本体（２０）の角度調節を可能にするように構成された頭蓋固定用のコネクタ（９）を備える、請求項１～５のうちいずれか一項に記載の装置。

【請求項７】

前記超音波プローブダクト（３）の前記外側壁がさらに、前記本体（２０）の前記下側遠位部（１．２）の部分に超音波エネルギー透過性の膜（１６）を備える、請求項１～６のうちいずれか一項に記載の装置。

【請求項８】

前記超音波プローブダクト（３）に挿入された前記超音波内視鏡検査プローブ（４）は、５．５～１０MHzの周波数で放出する、請求項１～７のうちいずれか一項に記載の装置。

【請求項９】

前記超音波内視鏡検査プローブ（４）の代わりに、スチレット（１３）が前記超音波プローブダクト（３）内に交換可能に誘導され、前記スチレット（１３）は、ニューロナビゲーションマーカー（１４）を備える、請求項１～７のうちいずれか一項に記載の装置。

【請求項１０】

前記圧力センサ（６）は、前記圧力プローブダクト（５）内の誘導を可能にする直径を有するボールの下端部に配置されている、請求項１～９のうちいずれか一項に記載の装置。

【請求項１１】

前記医薬用活性物質は、組換え型組織プラスミノゲン活性化因子（rtPA）、ストレプトキナーゼ、p-アミノイル化lys-プラスミノゲン-ストレプトキナーゼ活性化因子複合体、ウロキナーゼ、およびプロウロキナーゼなどの血栓溶解剤である、請求項１～１０のうちいずれか一項に記載の装置。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００３５

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００３５】

好適な実施形態において、圧力センサは、圧力プローブダクト内でのボールの誘導を可能にする直径を有するボールの一部である。圧力センサは、ボールの円錐端、すなわち、本体の下側部に配置されることが好ましい。

【誤訳訂正３】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００４２

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００４２】

図１は、本発明による超音波血栓溶解カテーテルシステムの実施形態を示している。装置は、異なる区画または内腔を収容する本体２０で構成され、区画または内腔は、互いに近接して配置され、対応する壁によって互いに隔てられる。基本的に、本発明の装置は、

様々な機能を有するカテーテルシステムを形成しているいくつかのカテーテルを含む。第1の区画または内腔は、流体および／または医薬用活性物質を脳内もしくは脳室内の出血部または血腫にフラッシュするためのフラッシュカテーテル1の一部である。好ましくは、rtPAまたは他の血栓溶解物質が、フラッシュカテーテル1を用いてICHまたはIVHの部位に適用される。本体20はさらに、ICHまたはIVHから流体を排出するためのドレナージカテーテル2の区画または内腔を収容する。本体20はまた、超音波プローブダクト3および別個の圧力センサダクト5の区画または内腔を備える。圧力センサダクト5の内腔は、好ましくは、植込み中およびICHまたはIVHの治療中に頭蓋内圧力を測定および分析するためのボール15の円錐端に圧力センサ6を組み込む。超音波プローブダクト3は、超音波プローブダクト3内に交換可能に誘導されうる、超音波内視鏡検査プローブ4（図1）またはスチレット13（図2）のいずれかを備える。フラッシュカテーテル1の上側近位部分1.1および／またはドレナージカテーテル2の上側近位部分2.1が、屈曲状に本体20から側方に突出する。フラッシュカテーテル1の下側遠位部分1.2および／またはドレナージカテーテル2の下側遠位部分2.2が、直線状に設けられる。